

【J39】日本LD学会第31回大会自主シンポジウム（ROOM-D）

UDLガイドラインを活用した授業改善を促す教員研修の試み
ーオンライン研究会による研修の成果と課題ー

話題提供 2： 福岡UDL実践研究会 での研修効果



話題提供②：西山 久子

2021年度福岡UDL実践研究会：実践家と実践研究者向けに主にリモートでの研修を中心とした取組

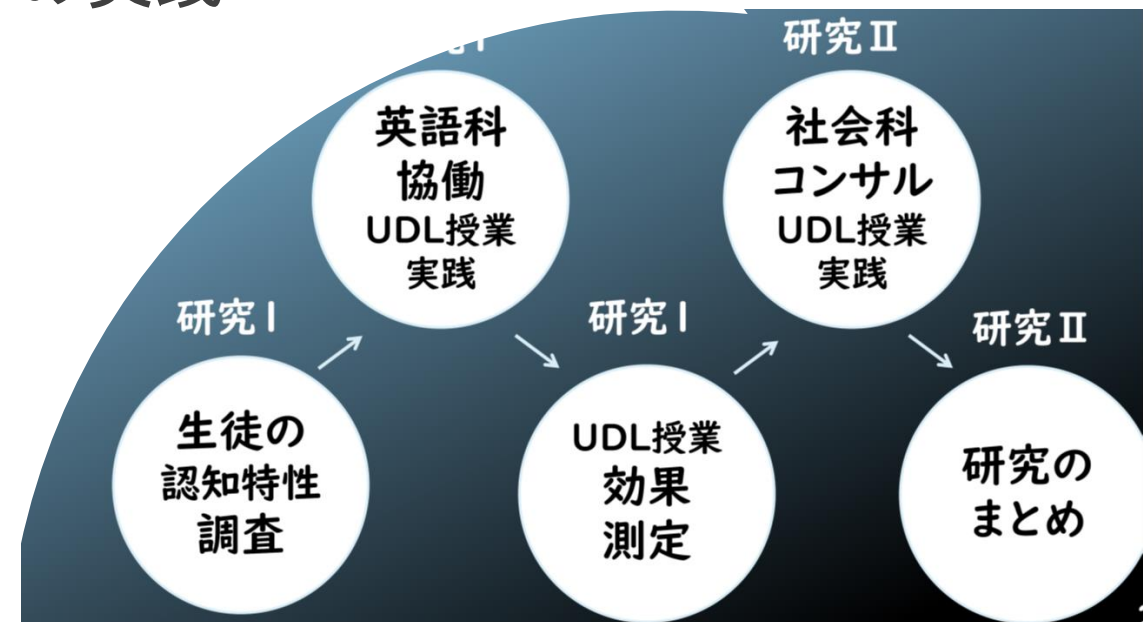
- ▶ 納富研究室HP・SNS等で研修会を広報
- ▶ 教職大学院で学ぶ現職長期派遣研修員へも広報
- ▶ 実践中・実践を検討中の学校等からグループ等で参加も

福岡UDL 実践研究会	研究テーマ	実施教科	対象	備考
第1回 2021年11月15日	子どもの学びを促進させるICT活用	(全般)	現職教員・ 学生・一般	ICT活用先進国： エストニアの教育
第2回 2022年3月8日	1 中学校における 授業改善	中学校 英語科	現職教員・ 学生・一般	オンライン開催
第3回 2022年3月31日	2 若年層教員の 授業改善の支援	中学校 社会科	現職教員・ 学生・一般	※ 第2回からの 継続参加が5割

教職大学院で児童生徒支援に長けたミドルリーダーを養成するプログラムに在籍し、「課題演習」で教科教育の授業改善の推進を研究された百武美穂氏から、話題提供を得る。

話題提供②の流れ

- 1: 福岡UDL実践研究会の取り組み
- 2: 2021年度第2回福岡UDL実践研修会
 - ▶ 報告: 百武美穂先生(納富研究室配属)の実践
 - ▶ 協議: 少人数と全体での協議
- 3: 2021年度第3回福岡UDL実践研修会
 - ▶ 報告: 他教科への展開
 - ▶ 協議: 全体の協議・質疑行動
- 4: まとめ



第2回研修会の概要①（百武先生の報告）通常の学級における生徒の特性を生かした中学校学習指導（英語編）

- ▶ 学校の規模・・・1000名近い生徒数。
- ▶ 学校の現状・・・大都市に隣接する地域的な課題
- ▶ 学校の目標・・・学力向上と不登校減少
- ▶ 不登校要因・・・①学業不振，②友人関係
- ▶ 教師の志向・・・活用力をつけることには取り組むが，個別対応は難しい

UDLで

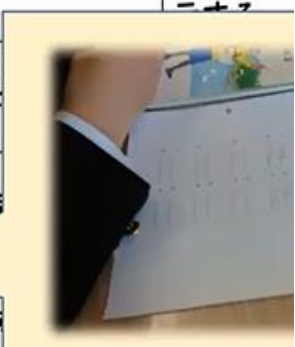
通常学級のどの子も意欲をもって学習に取り組み，学業達成を
成し遂げるための授業の在り方を究明する【英語】【他教科】

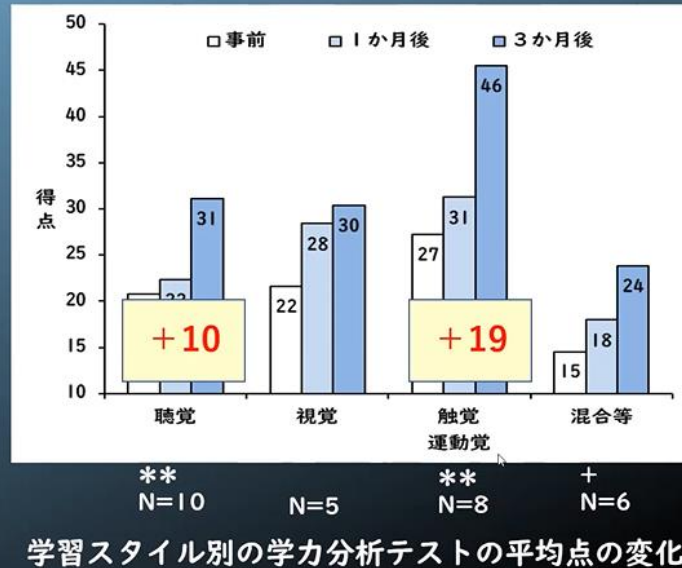
1

2

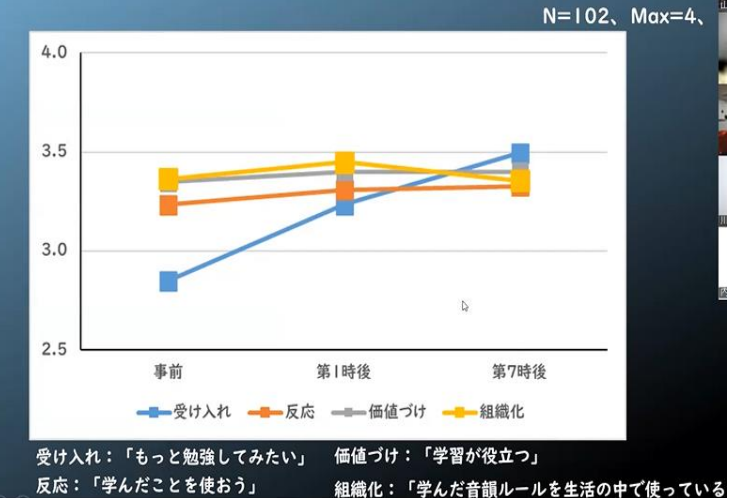
第2回研修会の概要②: 百武先生による話題提供

授業の様子

学習内容・活動	
1 復習 ・前音までの文字カードを見ながら一斉に発音する。	感情的・運動覚
2 物語 ・絵を見ながら英国文化や物語を聴く。	感情的・聴覚、触覚
3 アクション 物語に関連した「音を表すアクション」をする。	大動覚
4 空書き ・始点と筆順が示されたイラストを見ながら空書きする。	感情的・運動覚 (文字)
5 音素分解 ・単語を聞いて、対象の音の有無、位置を	
6 音素合成 ・音カードが移動する様子を見ながら発音	
7 テスト ・聞くか見るか選択し、文字を書き、採点	



前・中・後の生徒の情意面の変化



生徒の学びの優位性を自己理解した生徒のうち、とりわけ聴覚・触覚/運動覚優位の生徒は、学習開始から3か月後にテストでの成果を示し始めた。学びの活用が進んでいる生徒には、情意面の変化を顕著に示していることが分かった (百武美穂・納富恵子, 2022)

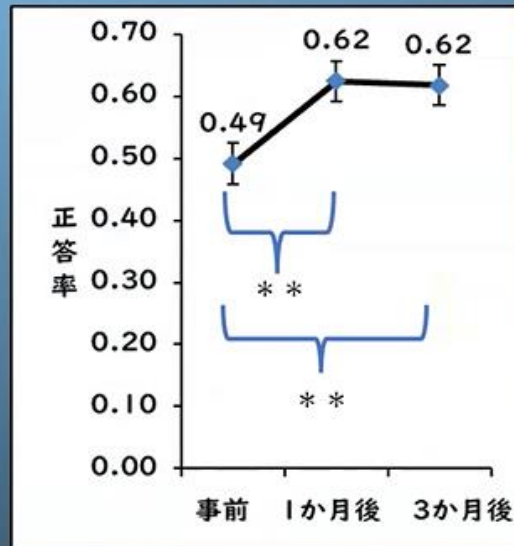
第2回研修会の概要③： 百武先生による話題提供

領域ごとの学業達成

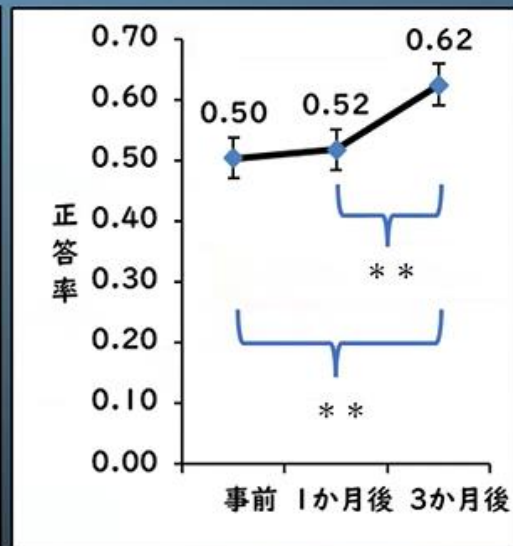
N=102

** $p < .01$

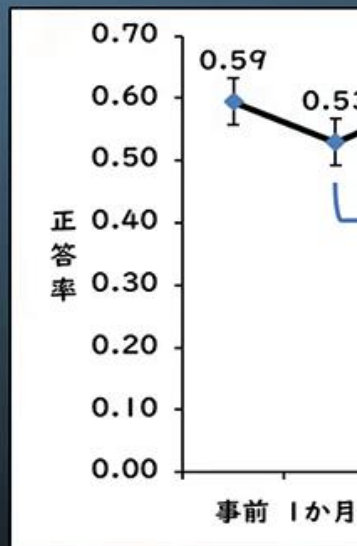
*



リスニング



文法



読解

事前・1か月後・3か月後の正答率の変化

英語の学習指導における
取り組みでは、徐々に成
果が表れる

- まずリスニング
- 次に文法
- そして読解

第2回：話題提供後のグループ協議・全体協議

▶ チャットの質問：「UDLのガイドラインの活用について詳しく知りたい」

⇒自分は、既存の教科書のどの部分がUDLガイドラインに当てはまるか？と考え授業を構成した。これから授業を創る場合、以下の手立てが考えられる。

例1 今までの自分の授業では、9つの枠組のうち、どれをやっているか確認し、手始めにまだやっていない部分だけに意図的に取り組んだり、

例2 一番上の「アクセスする」の部分だけに着目し、「わかる・できる・もっと」の3つとも、その部分だけをやってみることもできる。

まとめ：自分の授業スタイルをふまえ、無理せずやれることを、UDLガイドラインのチェックポイントから一つの項目だけでも実施するとよい。

子どもの姿と教師のもつ授業スタイルやタイプが双方多様なので、それらを重ねてどこができるか探し出し、1つでも実施すると子どもたちが反応する。UDLガイドラインを自分のこれまでの実践でできていることを把握したり、今までの姿を振り返る（次に何に取り組めるかを考える）指針にするとよい。

参加者の問い

Q:UDL-GLの
活用方法

第2回：話題提供後のグループ協議・全体協議

Q②：リスニングとフォニックスの関係を詳しく教えてほしい。

- ▶ ⇒自分でもわからなかった。1年生を対象で実施し、カリキュラム上は既習事項として生徒は理解しているはずが、そう認識されていなかった。
今回、音とブレンディングと、それを分けて考えることを学び、多くの生徒が振り返りで「これからは点数が上がるだろう」と書いていた。
- ▶ ⇒「人間は発音できる音しか聴き取れない」と言われていることとも合致する（ゲストコメンテーター：須原先生）

参加者の問い

Q:聴き取り
とフォニッ
クス（音声
学習法）の
関係

第2回：振り返りから

UDL活用の ために知りたいこと

- ▶ 英語以外の外国語学習・教育におけるUDLの事例
- ▶ 個人の音と文字の習得で交流の方法の可能性。
- ▶ 英文法・他教科の実践法・広げ方や汎用性。
- ▶ 他教科でUDLを活用する際のアセスメント方法。
- ▶ 自分の学習方法を把握する方法
- ▶ 小中の教員の持続的な成長に向けた研修の方法。
- ▶ UDL実践の自立的な研修方法・失敗例も含む実践
- ▶ ガイドラインによる授業の組み立て
- ▶ 数値化できない授業の自己評価以外の効果測定

UDL実践の ために知りたいこと

- ▶ 英語学習の取組を更に探求。
- ▶ UDL効果検証方法や事例
- ▶ 通常学級の一斉学習の活用事例
- ▶ 評価方法（テスト・発表・成果物以外の）
- ▶ UDL推進の多様な実践
- ▶ 特学での実践事例
- ▶ 大学での実践事例
- ▶ 研究会や実践報告
- ▶ 他教科での実践事例

第2回：振り返りから

感想編（抜粋）

- ▶ 実践報告と納富先生の解説で解りやすかった。
- ▶ 百武先生の実践の有効性が教科門外漢の私にもよくわかった。
- ▶ 授業進行の様子がうかがえてとても勉強になりました。
- ▶ 生徒のメタ認知が向上していくのが楽しいですね。
- ▶ UDL表活用についての百武先生のご回答が温かく、自分にもできるかもしれないと思った。勤務地でも生かしていきたい。
- ▶ 授業の一部にUDLが取り入れるというやり方・効果がわかり、勉強になった。
- ▶ 百武先生から、現職でできることをやり続けるためのエネルギーを得た。限られた教え方しかしないことからの脱却を広げ続けなければならないと実感した。
- ▶ ジョリーフォニックスの実践者としてUDLと一緒に考えたことがなく、気づきだった。
- ▶ 本研究会の継続性・実践の研鑽がよい
- ▶ 溶け込みやすい雰囲気。
- ▶ 大変刺激的。アイデアの卵をいただきました。

第2回研修会を 振り返って

キャプション

- ◆ 百武先生と先生が支援する英語科の先生の授業改善の取組
- ◆ 自分で行っている実践のよいものは残し、代替により改善できることを徐々に改善する

UDLガイドラインが確認の
プラットフォームとして機能

第3回：研修会の概要②（百武先生の報告）通常学級における生徒の特性を生かした中学校学習指導（社会科編）

- 百武先生自身の専門でない教科の教員にコンサルテーションができるのか？
- 教師歴15年の中堅教員（仮にA先生）と、その教員が社会科指導を担当する生徒140名を分析

1. ベース：UDL-GLをふまえた授業計画

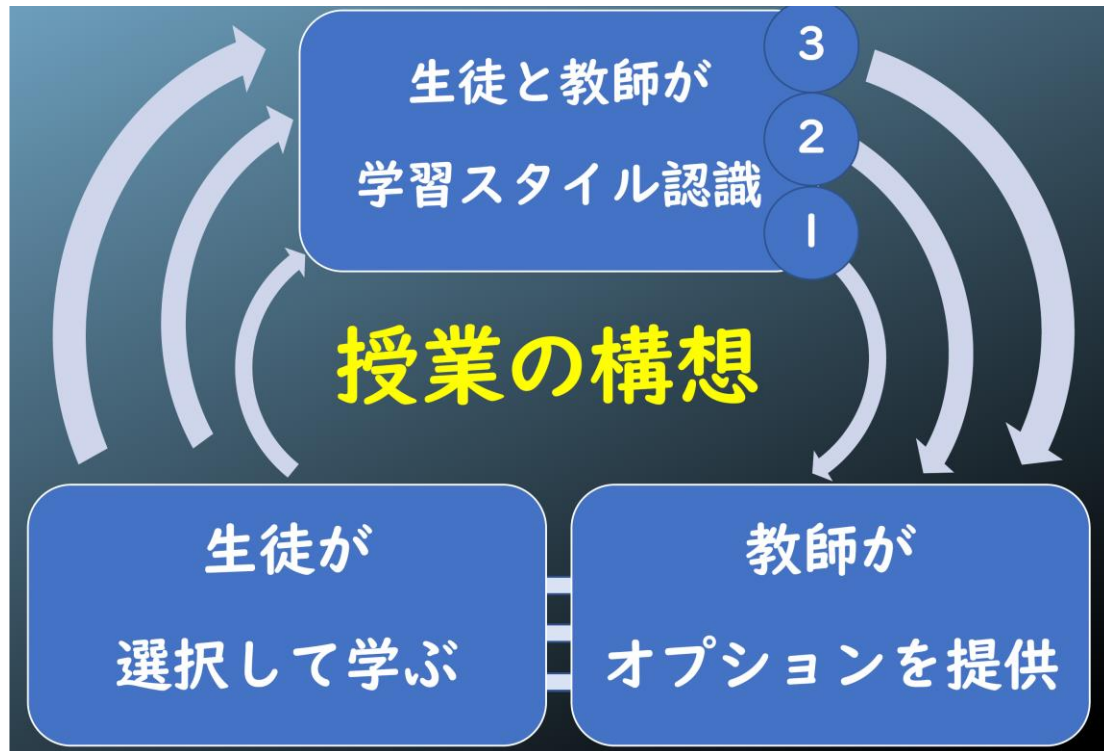
2. 実態調査：生徒の学習スタイル調査

3. A先生へコンサルテーション（9回）

4. 授業実践：地理・歴史・公民で各1単元を計画し調整しながら授業を実施

第3回研修会の概要①： 百武先生による話題提供

▶ 専門外のコンサルテーション



授業実践（地理、歴史、公民）

UDLガイドラインを用いて、取り組む項目を決定



小テストの代替としてレポートを課す計画



単元末レポートを学習の記録・振り返りレポートとして課す計画



交流のための、考え整理のレポートとして課す計画

第3回研修会の概要②： 百武先生による話題提供

英語の専門の百武先生による社会の専門A先生へのコンサルテーション

- ▶ コンサルの枠組はUDL-GL
- ▶ プランニングは授業者
- ▶ 計画調整・修正

時期		UDLガイドラインを用いた振り返り
事前	全体計画と地理分野の半元計画に向けて情報提供	「ユニバーサルデザイン」
地理開始期	進捗の確認と手立ての調整	生徒アンケート（記述）
地理中盤期	進捗の確認と評価の調整	生徒アンケート（4件法と自由記述）、生徒のレポート（1～3）
地理終末期	振り返り 歴史分野の	生徒のレポート（4～7） 「社会科の問題解決的な学習」
歴史開始期	進捗の確認	
歴史中盤期	進捗の確認と評価の調整	生徒のレポート（作成中のグラフ）
歴史終末期	振り返り 公民分野の	生徒アンケート（4件法と自由記述）
公民開始期	進捗の確認	
公民終末期	振り返り	UDLガイドラインを参考に計画の変更・調整

第3回研修会の概要③： 百武先生による話題提供

百武先生によるA先生への
コンサルテーション

- ▶ A先生がリードして
行われた社会科授業
のプランニング

授業実践（地理、歴史、公民） ～ コンサルテーションによる～

UDLガイドラインを用いて、取り組む
項目を決定



小テストの代替としてレポートを課す
計画



単元末レポートを学習の記録・振り返り
レポートとして課す計画



交流のための、考え整理のレポート
として課す計画



第3回研修会の概要③： 百武先生による話題提供

百武先生によるA先生への
コンサルテーションの
プロセス

- ▶ 英語の効果をチラ見せし社会科の授業改善に興味を示した先生との方針検討
- ▶ A先生自身が行っていることに既にUDLの片鱗がある事に自らが気づく

社会科だったらどんなことするんですかね？

資料の読み取り、エピソードを動画で視聴させる、実物・レプリカに触れさせるとか・・・ですかね？

それ全部、先生の授業ではすでにやっていますよね？

ええ、でも、雨温図とかは、読み取れてない生徒が多いから、本当の水の量とか本当の外気温の冷たさとかを体感させたいですね、そういうことなんですか？

そうそう！

オプション：自分の教科ですら何がそれにあたるのかわからない
他教科のことまでわかるわけがない…



第3回研修会の概要③： 百武先生による話題提供

進むコンサルテーション

- ▶ A先生の授業改善への興味を軸に交流し、本人とUDL理論の仲介
- ▶ 本人が主体的にUDLを取り入れた授業をすることに対するモチベーションを伴走しながら促す

これがUDLガイドラインで日本語に訳されてるから読めるよ

やってる、やってる、「あー、これやれるかなー」

5、これからやる予定がありますか？

はい、いつも知識の問題解かせてたんですけど、それをレポートにして評価すれば同じことだから



やってもらわないと困る…、やると言ってくれ…
だって課題演習の計画はすでに進行中なんだから！



第3回研修会の概要③：百武先生の話題提供

進むコンサルテーション：
授業者の成長をうながす
評価的支援

情意を支える



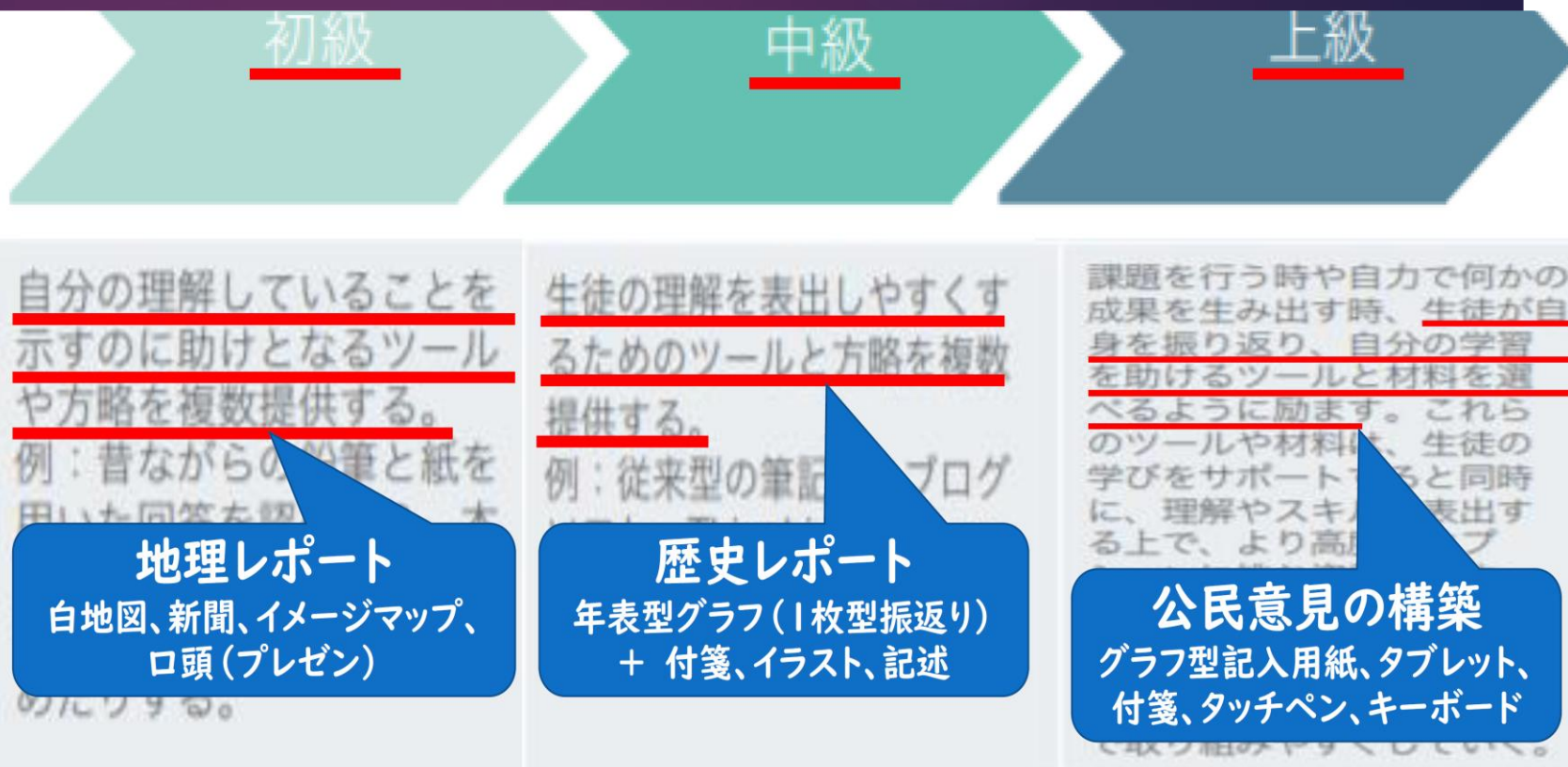
こんなオプションもあったらいな！（わくわく）

認知を支える



中学社会科でこんな事やってるんだな！（なるほど）

今までやっていたことと入れ替え！（これならできる）



- ▶ A先生の授業改善の進捗を根拠に基づいて評価する
- ▶ わからないことがむしろ率直に話題にできる背景になっている

第3回：振り返りから

参加して得られたヒント

- ▶ まずは、成功例をつくること
- ▶ 高等学校ではICTの教育的使用が進んでいるため、UDLガイドラインに基づいたオプションの作成から専門的に始めたい
- ▶ 周りの教員の実践をURLの視点から解説し価値付ける
- ▶ まずやってみること。他の教員を巻き込むこと

全体的な感想

- ▶ 何を広めるにも、まずは興味を持ってもらうところからという考え方にアイデアをいただきました。
- ▶ ブレイクアウトルームで 先生方のご意見を伺うことができたことがありがたかったです
- ▶ 自分の実践を他の教員に伝えて実践してもらったことが素晴らしかったです。

第3回研修会を 振り返って

キャプション

- ◆ 教科領域の専門性を越えたコンサルティングの効果性が示された
 - ◆ 1つの成功から展開させられる
 - ◆ 根拠ある授業者評価が重要
 - ◆ 授業改善の当事者自身が語る
ことがモチベーションになる
- UDL実践者の成長のルーブリックなどで確認できることを示し、自己成長を促進

主な引用文献

- 百武美穂 2022a 第2回研修会資料
- 百武美穂 2022b 第3回研修会資料
- 百武美穂・納富恵子 2022 多感覚を用いたシンセティック・フォニックスの指導とその効果 福岡教育大学紀要. 71. 265-274

ありがとうございました

